

岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画(第1期)(案)の概要

【適正化を検討する小・中学校】

- (1) 牛滝の谷地域
(城東小、山直南小、山滝小、山滝中)
- (2) 葛城の谷地域
(天神山小、修斉小、東葛城小、葛城中)
- (3) 都市中核地域
(中央小、浜小)

【適正化に向けた基本的な考え方】

- ①中学校区を単位とした適正化 ⇒通学距離・時間の地理的条件や地域コミュニティ等を勘案。
- ②新たな学校として適正化 ⇒吸収する・されるの考え方の統合ではなく、新たな学校としてスタート。
- ③(仮称)学校開校準備委員会の設置 ⇒地域、保護者代表も参加し、新たな学校開校までの具体的検討を行う。
- ④小中一貫教育の導入 ⇒適正化の取組を機に、義務教育9年間を通じた小中一貫教育を導入。

【適正化の内容】

適正化検討対象校が所在する3地域のうち、今回の計画では「牛滝の谷地域」、「葛城の谷地域」における具体的内容を示し、取組に着手する。

①(仮称)山直小学校の設置

場所：現山直北小学校 対象校及び地域：山直北小、城東小、山直南小(包近、山直中)

②(仮称)山滝小中一貫校の設置

場所：現山滝中学校 対象校及び地域：山滝中、山滝小、山直南小(積川、稲葉、岸の丘)、東葛城小(神於、上白原)

③(仮称)葛城小中一貫校の設置

場所：現葛城中学校 対象校及び地域：葛城中、天神山小、修斉小、東葛城小(河合、相川、塔原)、門前町、神須屋町等

②山滝、③葛城は、市全域から児童生徒の通学を可能とし、確かな学力や、体力の向上を目指す取組など、特色ある教育活動を展開する、**特認校制度の実施を検討。**

②山滝は、**市立認定こども園も同一敷地に設置**

【適正化の際の必要な対応】

- ①通学環境への配慮…徒歩、自転車の通学が困難な場合はスクールバスを導入。
- ②学習環境への配慮…学校行事や部活動等に児童生徒同士の事前交流の実施等。
- ③校舎の建替や改修工事…安心・安全に学校生活が送れるよう適正化に合わせて実施。
- ④特色ある教育活動の継承…児童生徒の豊かな心を育むための教育活動は引き続き実施。
- ⑤支援を必要とする児童生徒への対応…適正化後も切れ目のない一貫した支援を行う。
- ⑥学校跡地の利活用策の検討…地域の方々の意見も踏まえ、利活用策を検討。

【適正化までのスケジュール】

- 適正化までのスケジュールは、準備委員会設置後5年程度を目安。
準備委員会での検討や校舎の建替、改修工事期間を踏まえる。
- 開校の目標時期は、3校いずれも同一を原則とする。
山直南小、東葛城小(1小2校区)の児童の教育環境への影響に配慮。
- 「都市中核地域」(中央小、浜小)については、継続検討。第2期計画で対応。